京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

2023年6月28日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　藤　　洋 作　様

所属部局・研究科　大学院医学研究科附属ゲノム医学センター

職 名・学 年　特定研究員

氏　　名　岩﨑 毅

助成の種類	**令和５年度　・　国際研究集会発表助成**		
研究集会名	2023年欧州リウマチ学会年次集会		
発表形式	☐ 招待　・　☑ 口頭　・　☑ ポスター　・　☐ その他（　　）		
発表題目	ANCA関連血管炎患者における体細胞変異の同定 単球由来のトランスクリプトームが関節リウマチにおけるアバタセプトの効果を説明する		
開催場所	イタリア・ミラノ		
渡航期間	2023年5月30日　～　2023年6月5日		
成果の概要	**タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版１枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　☐ 無　☐ 有（　　）**		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円	
	使用した助成金額	350,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳（差し支えなければ要した経費総額をご記入ください）	費目	金額（円）
		航空運賃	299,030
		宿泊費	54,600
		滞在費	0
		学会参加費	0
		その他	4,200
		以上に助成金を充当	
当財団の助成について	（今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。）		

成果の概要／岩﨑毅

私は二演題をポスターツアーで発表した。両者ともに 3 分を口頭で発表し、2 分の質疑応答という形式であった。両者ともに聴衆はおよそ 30 人程度であった。

一演題目の「単球由来のトランスクリプトームが関節リウマチにおけるアバタセプトの効果を説明する」については 10 人程度から質問を頂き、質疑応答で(嬉しくも)大幅に制限時間を超えるような反響があった。私の研究内容は末梢血のトランスクリプトーム・プロテオームから関節リウマチ患者におけるアバタセプトの反応性を予測するというもので、単球における活性化シグナル(MYD88→HGF 軸、およびミトコンドリア関連経路)があった場合治療反応性が悪いというものであった。質問内容は「リウマチ患者の滑膜における HGF の発現を免疫組織染色などで確認したか」「セルタイプ・エンリッチメント解析の元となる遺伝子発現データベースの妥当性について」「HGF のレセプターの発現はどうなっているのか」「アバタセプト反応者・非反応者の定義はどのようにしたか」といったものであった。自分が引用し使用している論文の著者が質問者の中にいたり、イタリアの大学教授から是非コラボレーションしましょうと言われたりするなど、国際会議ならではのつながりも生まれ嬉しかった。

二演題目は「ANCA 関連血管炎患者における体細胞変異の同定」では RNA 配列と DNA 配列を比較することにより体細胞変異を同定したという内容の発表を行った。こちらも沢山の質問を頂き、「研究にリクルートされた患者はどのような治療がされ、またそれにより体細胞変異はどのように変化したか」「体細胞変異の CRIPR による機能解析を行うのに用いた細胞はどういったものか」といった内容であった。同じセクションには同様に体細胞変異の研究を行っている研究者もおり、彼女の演題は関節リウマチ患者で特定の遺伝子の変異をみとめており、さらにその変異割合は抗体価と比例という内容でとても興味深かった。セッション終了後に互いの研究内容について議論を交わし、名刺も交換した。

欧州リウマチ学会は Covid19 アウトブレイク期間を終え久々のオンサイトのみの集会で、予想を超えた人数が参加していた。筆者は大会長の挨拶から終日のハイライトセッションまでみっちり参加し、興味のある内容には 4-5 回程ホールで質問も行い、そういった議論の場が私にとっては初めてで貴重であった。また学会終了日には現地で知り合った海外の研究室メンバーと食事をし、研究内容や海外の事情について知ることができとても勉強になった。筆者にとって初めての欧州リウマチ学会参加であったが、誇れるような成果を発表できるよう、引き続き頑張りたいと考えている。